

金沢大学

ふむふむ
フェムテック

記録集

金沢大学ダイバーシティ推進機構

経済産業省 令和5年度「フェムテック等サポートサービス実証事業費補助金」採択プロジェクト

「思考するトイレ空間」としてのフェムテック情報ステーションの構築—大学で働く教職員と社会人予備軍である学生に向けたヘルスリテラシー向上プログラムとフェムテック研究推進プロジェクト

金沢大学は、経済産業省 令和5年度「フェムテック等サポートサービス実証事業費補助金」に代表団体として国立大学法人で初めて採択され、『『思考するトイレ空間』としてのフェムテック情報ステーションの構築—大学で働く教職員と社会人予備軍である学生に向けたヘルスリテラシー向上プログラムとフェムテック研究推進プロジェクト』“ふむふむフェムテック”を実施いたしました。

中心となるのは、トイレ内情報ステーション「思考するトイレ」です。金沢大学角間キャンパスにある4つの建物内10のトイレを「思考するトイレ」として、トイレごとに月経や不妊等女性の健康課題に関するテーマを設定し、関連するインフォグラフィックを掲示いたしました。ダイバーシティ環境は、女性だけでなく、男性も含め皆で考えていかなければならないという方針から、女性トイレだけでなく、男性トイレ、また多機能トイレにも掲示しました。それにより、男性からも反響がありました。イベント等も実施し、多角的なアプローチでヘルスリテラシー向上を目指した本プロジェクトが、やがて大学のダイバーシティ環境を変えていく力になっていくのではないかと期待しています。この記録集では、約4か月に渡って実施した「ふむふむフェムテック」プロジェクトの全内容についてご紹介いたします。

「ふむふむフェムテック」概要

経済産業省 令和5年度「フェムテック等サポートサービス実証事業費補助金」採択プロジェクト
「思考するトイレ空間」としてのフェムテック情報ステーションの構築—大学で働く教職員と社会人予備軍である学生に向けたヘルスリテラシー向上プログラムとフェムテック研究推進プロジェクト

会期：2023年10月16日～2024年2月16日

会場：金沢大学角間キャンパス

企画：金沢大学ダイバーシティ推進機構

キュレーション：高橋律子（ダイバーシティ推進担当専門業務職員）

「思考するトイレ」デザイン：福岡南央子（woolen）

ふむふむフェムテック



和田隆志学長（右）と山岸雅子機構長（左）



女子トイレ〈不妊〉



男子トイレ〈不妊〉

自然科学本館1階



多機能トイレ〈包括的性教育〉



多機能トイレ〈更年期〉



多機能トイレ〈緊急避妊薬〉



女子トイレ 〈性感染症〉



男子トイレ 〈性感染症〉

思考する

トイレ

本部棟 2階



多機能トイレ 〈AYA世代のがん〉



思考する

トイレ

人間社会第2講義棟2階



人間社会第2講義棟2階



女子トイレ〈月経〉



男子トイレ〈月経〉

「思考するトイレ」その他



個室モニター「AirKnock」

株式会社 VACAN

トイレの混雑状況を管理するデジタルサイネージ「AirKnock」を活用し、動画配信を行った。個室のドアを閉めると動画が始まる仕組みとなっている。トイレ利用時にフェムテックの知識を自然と得ることができた。

ナプキン支給型モニター「カケハシ」

株式会社グロースベネフィット

動画をトイレ利用者が見ることによって、ナプキンが無償提供される仕組みになっている。アンケートでは、急に生理になったときに「助かった」という声が多くあがった。トイレットペーパーのようにナプキンも無償提供されるべきだとする意見もあった。



自動開閉式サニタリーボックス「サニッコ」

日本カルミック株式会社

手をかざすと、自動で開閉するサニタリーボックス。アンケートではすでに使用されたナプキン等が見えてしまうことや、取っ手を手で触ることに対する衛生面での懸念など、従来のサニタリーボックスに対してストレスを感じている人が多くいたことがわかった。本プロジェクトをきっかけに女性たちが抱えている課題が明らかになった。



思考

不妊の原因は女性のみに原因があると考えられてきましたが、2003年の調査では、男性に起因する不妊は32%に上っています。日本では諸外国と比較して体外受精の成功率は高いですが、不妊治療者の年齢層が高く、成功率が低いのが特徴です。また不妊治療は女性に心理的・精神的負担が大きく、仕事と不妊治療の両立ができません。不妊治療経験者の22%が仕事を離れ、10%が雇用形態を変えています。

It is commonly thought that infertility is solely attributed to women. However, according to a 2003 survey, 32% of infertility cases were caused by male factors. In Japan, the number of IVF procedures performed is higher than in other countries, but the success rate is low due to the wide age range of patients seeking infertility treatment. Infertility places a heavy psychological and emotional burden on women, making it challenging for them to balance work and the demands of treatment. As a result, 22% of those who have undergone fertility treatment left their jobs, and 10% changed their employment status.

不妊 infertility

不妊の原因

原因	割合
子宮因子 (Uterine factor)	14%
卵管因子 (Fallopian tube factor)	20%
卵巣因子 (Ovarian factor)	24%
免疫因子 (Immune factors)	16%
その他 (Others)	26%

1/3 女性性

不妊治療者の年齢層の構成の国際比較

国	15-24%	25-34%	35-44%	45-54%	55-64%
韓国	20.0	28.0	32.0	18.0	2.0
アメリカ	15.0	35.0	30.0	15.0	5.0
フランス	10.0	30.0	35.0	20.0	5.0
ドイツ	12.0	28.0	32.0	25.0	3.0
イギリス	15.0	30.0	30.0	20.0	5.0
日本	10.0	25.0	35.0	25.0	5.0

Success rates of infertility treatment

不妊治療率

成功率 (%)

年齢層 (%)

イベント

ふむふむ フェムテック

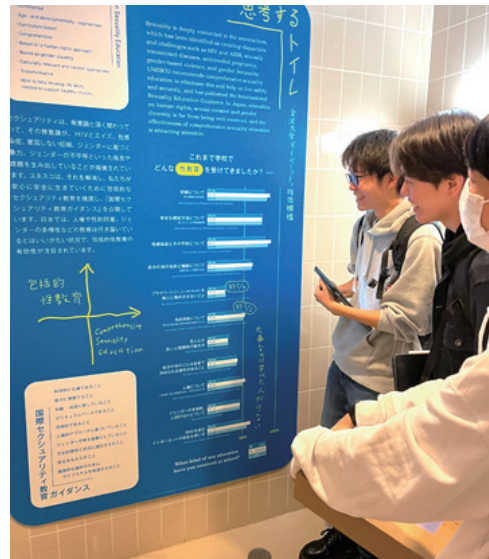


オープニング・レセプション

2023年10月16日（月）

会場：自然科学本館1階ワークショップ1

自然科学本館ワークショップ1を会場に、オープニング・レセプションを開催。学内外の関係者・学生・プレスが参加した。和田学長と山岸機構長の挨拶の後、自然科学本館1階に設けられた「思考するトイレ」を全員で見学した。さらにフェムテックアイテム展示会とミニライブラリーを10月16日・17日の2日間にわたって開催した。



フェムテックアイテム展示会&ミニライブラリー

2023年10月16日（月）・17日（火）

会場：自然科学本館1階ワークショップ1



Femtech Item Exhibition

Mini Library

イベント

ふむふむフェムテック

雑談のチカラ フェムテック篇

「ふむふむフェムテック」では、企業が注目するフェムテックの取組を紹介する「雑談のチカラ」を2回開催した。身近な健康課題をどう解決していくか、企業の方々と話し合う機会となった。



iU 学生起業家・京田祐里奈さんとの
トーク・カフェ
「フェムテックで起業する！」

2023年10月17日（火）

会場：自然科学本館ワークショップ1

ゲスト：京田祐里奈さん（Lupinus 合同会社代表/
【iU】情報経営イノベーション専門職大学4年）

参加者：11名



花王&味の素のフェムテックの取組

「なぜ、いま、フェムテック？ ～痩せたい ⇒ 健康で自分らしいわたしへ～」

2023年10月23日（月）

会場：ナカフクリ食堂

ゲスト：花王株式会社（アジアフェムテックフェムケア・プロジェクトメンバー）、
味の素株式会社 他

参加者：20名



戦略的イノベーション
創造プログラム

Cross-ministerial Strategic
Innovation Promotion Program



セミナー

体をととのえる！ 骨盤底筋エクササイズ

同時開催

「子どもの運動あそび体験」

2023年12月10日（日）

会場：角間の里、角間キャンパス体育館

講師：星野恵美・森亮太（特定非営利活動法人クラブぽっと）

ダイバーシティ推進機構ではワークライフバランスを推進しており、育児中の教職員の方々向けに私生活と仕事をともに充実させるための支援も兼ね、「ふむふむフェムテック」のセミナーとして企画した。同時開催で子どもも楽しめる講座も実施し、参加しやすいプログラムになった。アンケートでは、「普段体を動かす機会がないので良い機会になった」という健康に関するコメントだけでなく、「子どもを預かっていただけるので心配なくエクササイズ参加できた」「大変嬉しい企画。自分のための時間をもてた」といった意見もあり、子育てしている教職員が参加しやすい枠組みづくりが求められていることがわかった。



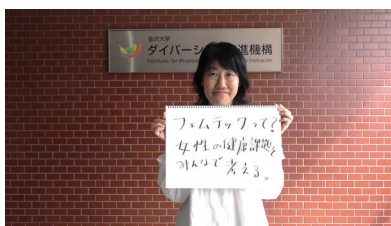
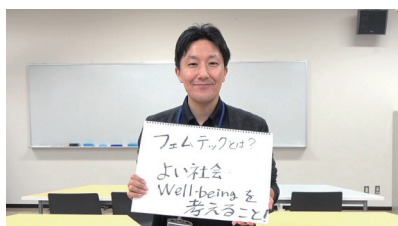
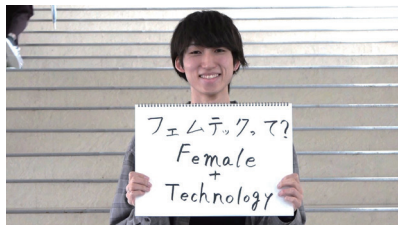
「体をととのえる！ 骨盤底筋エクササイズ」
参加者数：10名



「子どもの運動あそび体験」参加者数：16名

フェムテック動画配信

「思考するトイレ」に掲示している全インフォグラフィックを見られるようにトイレ内のモニターで配信した。動画には学生・教職員・関係者の方々に協力してもらい、「フェムテックとは何か？」という問いに手書きで答えてもらった。身近な人からのメッセージ発信により、フェムテックへの関心が深まったように思われる。さらに、「雑談のチカラ」で協力いただいた花王株式会社と味の素株式会社が取り組んでいる「痩せ」の課題についても動画で取り上げた。アンケートでは、「個室の動画から他の人からはなかなか聞けないデリケートな情報を知ることが出来た」といった意見が寄せられた。



「雑談のチカラ」のトークをきっかけに新規動画を製作。

教職員・学生・ゲストと協働しトイレ内のサイネージに配信する動画を製作。

「ふむふむフェムテック」 利用者アンケート

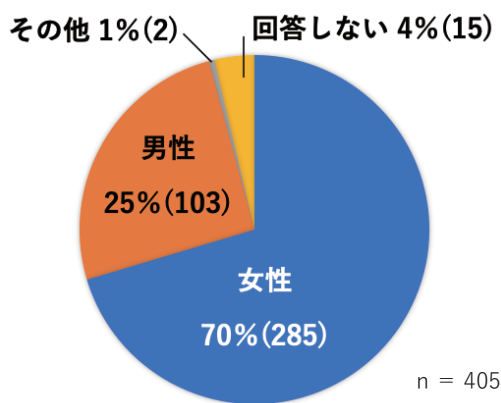
対象：学内教職員及び「ふむふむフェムテック」利用者

回答数：405件

調査方法：google foam を利用

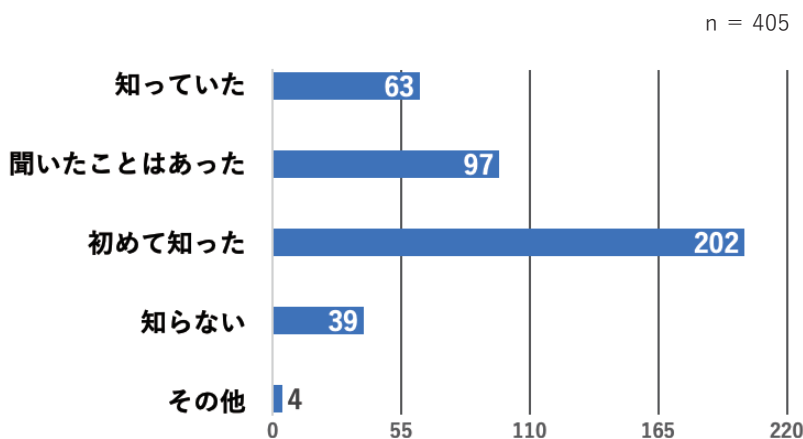
調査日：2024年1月22日～2月10日

Q. 性別



フェムテックは女性だけのものと考えられがちであることから、本プロジェクトでは、本学の多数を占める男性にもヘルスリテラシーに関心を持ってもらえるよう意識した。特に男性トイレにもインフォグラフィックを設置したことによって、男性の関心度が上がったといえる。

Q. 「フェムテック」 という言葉を知っていたか？



フェムテックは、2021年の新語・流行語大賞にもノミネートされた言葉であるが、企画を進めている段階では、知っている人は非常に少なかった。本プロジェクトを実施するに連れ、フェムテックについて語る機会は増えていったといえる。アンケート結果では、本プロジェクトでフェムテックを初めて知った人が405名中202名とほぼ半数となった。言葉の浸透によって、女性の健康課題を考える環境が整備されていくことを期待したい。

「ふむふむフェムテック」 利用者アンケート

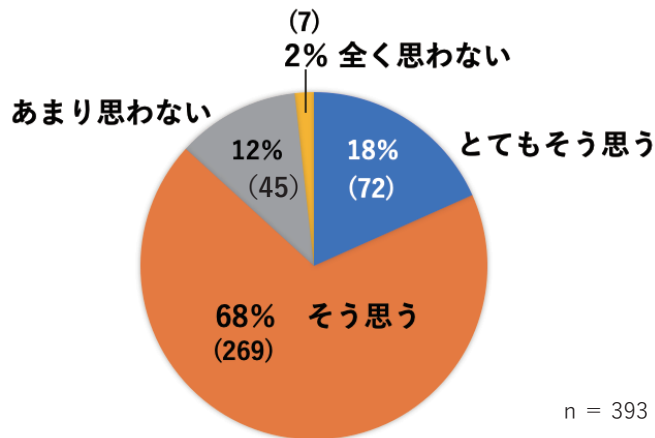
対象：学内教職員及び「ふむふむフェムテック」利用者

回答数：405件

調査方法：google foam を利用

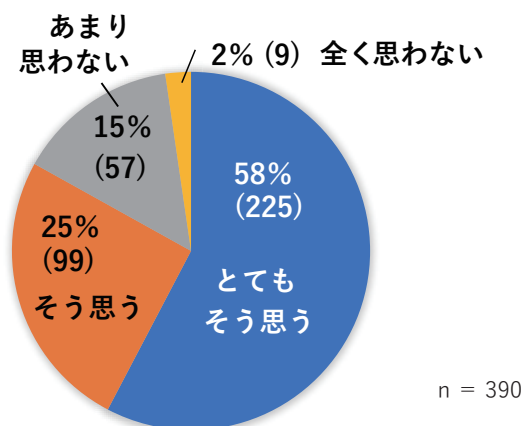
調査日：2024年1月22日～2月10日

Q.
「ふむふむフェムテック」を
通して健康への理解が
深まったか？



「とてもそう思う」と「そう思う」を合わせて86%となり、利用者の多数が健康への理解が深まったと回答した。自由回答のコメントから、トイレで自然と知識を深めることに対して高い評価を得たことがわかった。男性と女性のインフォグラフィックの内容は共通であったが、そのことについて注意書きがなかったため、他のトイレでどのような情報提供がされているかわからない状況であったことは改善すべき点であった。

Q.
「ふむふむフェムテック」は
大学の環境改善に
つながったと思うか？



大学の環境改善としても、「とてもそう思う」と「そう思う」を合わせて83%と高い評価を得た。ナプキンの無償提供や自動で開閉するサニタリーボックスには導入を期待する多くのコメントが寄せられた。環境改善については、施設の改修だけでなく、こうした消耗品類の提供等に対する期待が大きかったことがわかった。

利用者からのコメント

アンケートでは、良かった点や感想など自由に記述してもらった。
いくつかの意見を紹介する。

ふむふむ
フェムテック

今回、この企画（とくにトイレ企画）によって、男性の私でも、フェムテックに関する理解をすることができ、相互理解へ近づいた気がする。この機会に少し調べてみたが、フェムテックの対義語としてメンテックも存在するようである。例えば不妊などは、女性の問題と思われてきたが、男性の問題の可能性もある。これは少しずつ浸透はしてきたが、一般的といえるかは難しい。このように健康上の課題を理解しようとする手助けとなった企画であったと思う。パートナーや家族への理解を深めることに大いに役立つと感じた。 男性・学生

性的な話題や知識は公に取り上げられることがなく隠されがちで、友人とそういった話をするのも恥ずかしいので、問題や悩み、疑問があっても個人の中に留まって共有されない点に不安を感じていました。今回の取り組みではそういった話題を公共の場といえるトイレで自然に見られるように取り上げて、知識を共有してくれたので、安心感を感じましたし、とても有り難かったです。 その他・学生

男性用トイレがどのようになっているか分かりませんが、性に関する知識は自分から男性に伝えるのは気持ちとして難しいため、トイレを使用する度に男性にも知識を身につけてもらえるのは助かると思った。 女性

思考するトイレを利用したことで、子宮頸がんについて健康意識を持つようになりました。数年ぶりに検診を受け、今後も2年おきに検診を受けようという意識を持つことができました。 女性・学生

こうした取り組みは日常に定着してこそ意味がありますが、そのためには数年単位で時間がかかるものかと思います。単発的なイベントではなく、ぜひ長期的な視点で、できる範囲で継続していただければと思います。 女性・教職員

生理のPMSについて、私が気にしていた症状をみんなが、持っていることを知ることができた。 女性・学生

性感染症は、保健の授業で習ったが、覚えていないことが多かったので、勉強になり、もっと知識を深めたいと思った。 女性・学生

こういった女性の悩みや健康面での辛さを男性側も正しく理解するべきだと感じるので、イベントや講演などの任意参加ではなく、一年次での必修科目に取り込むことができれば、大学全体での認識や待遇の変化につながると思う。 男性



金沢大学ダイバーシティ推進機構

ダイバーシティ推進に関する施策立案、事業実施を担当する組織として、ダイバーシティ推進機構を令和4年4月に設置しました。前身の男女共同参画キャリアデザインラボラトリーで行ってきた女性研究者の増加と支援のポジティブアクションを引き継ぎさらに展開するとともに、国際機構や障がい学生支援室をはじめ関連部署と連携しながら、より包括的なダイバーシティ & インクルージョン推進の取組をすすめています。

2022-23 主な取組



生活との両立支援 Support for work-life balance

構成員の職務と生活の両立が叶う職場環境の実現に向けて意識の醸成や育児・介護などライフイベント中の支援等を実施しています。

- ・ 男性育児休業取得の促進
- ・ 交流会開催：研究者交流会「はあぞみサロン」
- ・ 共通テスト等の託児室設置
- ・ ベビーシッター利用料金割引事業
- ・ はあぞみルームの運営
- ・ ベビーベッドの貸出



ダイバーシティ推進機構看板除幕 (R4.6.27)



女性研究者支援 Support for female researchers

女性研究者のステップアップを後押しする着任時のスタートアップや、リーダー育成支援など研究活動のさまざまなシーンを支援する多様な制度があります。

- ・ 研究パートナー制度
- ・ 金沢大学ダイバーシティ顕彰
- ・ 女性研究者等研究支援制度、成果報告会
- ・ 本学の女性研究者数等に関する分析
- ・ 女性研究者キャリア研修（着任時、昇任時など）
- ・ 女性研究者国際シンポジウム開催支援
- ・ 管理職対象の研修
- ・ 海外派遣支援
- ・ 大型研究費申請支援
- ・ シンポジウム



キックオフシンポジウム (R4.8.1)

令和5年度 Hokuriku Women Researchers' Network ワークショップ

女性研究者等研究支援制度・共同研究支援制度 成果報告会

日時 令和5年 7月28日(金)
13:00～15:40

形式 オンライン開催 (Webex meetings)

参加費無料
要事前申込

お申込はこちら
<https://forms.office.com/e/casagkbcEA>
【申込締切】 令和5年7月26日(水)

Program
13:00～13:05 開会挨拶
13:05～14:05 共同研究支援制度 成果報告 (3グループ各20分)
14:05～14:15 休憩
14:15～15:35 女性研究者等研究支援制度 成果報告 (4グループ各20分)
15:35～15:40 閉会挨拶

【主催】 金沢大学
【お問合せ先】

女性研究者等研究支援制度・共同研究支援制度 成果報告会 (R5.7.28)



2022-23 主な取組



若手研究者育成支援

Support for young researchers

研究者・技術者の裾野拡大に向けて、
女子学生・中高生・若手研究者支援の取組を行っています。

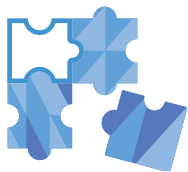
- ・女子中高生向けイベント
- ・研究写真展
- ・保護者向け講演会
- ・分野別女性研究人材交流会開催支援
- ・ロールモデル動画・博士後期課程女子学生育成支援



ダイバーシティ顕彰授賞式 (R5.3.6)



夏休み！研究室訪問 in 金沢大学～みんなで巡るラボツアー～ (R5.8.25)



外国人・障がい者・LGBTQ+支援

Support for foreign researchers, researchers with disabilities, and LGBTQ+ researchers

国籍・障がい・性別等に関わらず活躍しやすい環境を実現するため、
相談窓口を設置しています。

■外国人教職員・留学生

- ・本人及び家族の日本語学習支援
- ・留学生相談担当教員による相談対応
- ・日本適応教室「さくら」(附属小学校)
- ・留学生交流イベント
- ・留学生生活・履修オリエンテーション
- ・学生相談会・キャンパスツアー
- ・チューターの配置
- ・日本語学習・支援教室

■LGBTQ+

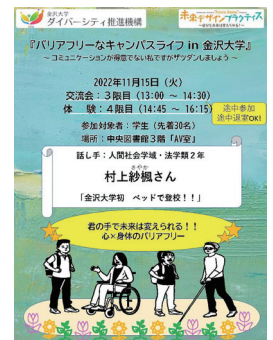
- ・LGBTQ+ 相談窓口
- ・LGBTQ+ 勉強会
- ・LGBTQ+ サポートガイド公表
- ・プライドパレード参加
- ・LGBTQ+ 相談員養成研修

■障がい者

- ・障がい学生の修学・指導についての相談と支援
- ・聴覚障がい学生のためのノートテイクの養成と配置
- ・チューターの配置
- ・コミュニケーション練習会の実施
- ・教職員対象の相談窓口の設置
- ・ジョブコーチとの情報交換会
- ・手話講座の開催
- ・大学構内のバリアフリー化に関する相談や調整
- ・教職員や学生に対する障がい理解についての啓発
- ・学生の学修支援に関する情報交換会
- ・石川県障がい学生等共同サポートセンターの運営



留学生交流イベント (R4.7.7)



バリアフリーに関するトークイベント (R4.11.15)



プライドパレード金沢への参加 (R5.10.9)





金沢大学ダイバーシティ推進基本理念

金沢大学は、さまざまな属性・個性を持つ一人一人の構成員が、年齢、国籍、障がいの有無、性別、性的指向、性自認その他の多様性を互いに認め合いつつ、修学・研究・業務に関して、志高く自らの能力を最大限に発揮できる公正性が保障された環境を実現します。そのために、教育・研究・就業環境の整備に取り組むとともに、理解を深めるための啓発活動を積極的に実施していきます。このような多様性、公正性、包摂性（Diversity, Equity & Inclusion: DEI）の実践により、「地域と世界に開かれた教育重視の研究大学」として、世界の平和と人類の持続的な発展に資するとともに、本学の構成員すべてが、相互に属性・個性を尊重し合える共生社会の実現を目指します。

ここに本学は、「金沢大学ダイバーシティ推進基本理念」を制定し、すべての構成員共通の価値と位置づけ、そのもとで行動していきます。

金沢大学ダイバーシティ推進宣言

金沢大学は、世界の平和と人類の持続的な発展に資するため「地域と世界に開かれた教育重視の研究大学」（金沢大学憲章）を基本理念としています。この理念を実現するため本学の構成員一人一人が誇りをもち相互に尊重し合える共生社会を目指しています。

金沢大学が、地域と世界への貢献をめざして発展するためには、さまざまな属性・個性を持つ一人一人の構成員が誇りをもって互いに認め合い、修学・研究・業務において、志高く自らの能力を最大限に発揮できる公正性が保障された環境を実現することが必要不可欠です。そこで、以下の『金沢大学ダイバーシティ推進宣言』を公表し、多様性、公正性、包摂性（Diversity, Equity & Inclusion: DEI）の実践と促進を宣言します。

1. 本学のすべての構成員が、年齢、国籍、障がいの有無、性別、性的指向、性自認などの多様性を互いに認め合い、尊重し合える大学環境を整備します。
2. 多様な構成員が、様々な属性や背景を理由に不当に排除されることなくその能力を最大限に発揮し、公正性が保障された修学・研究・就業環境を実現できるよう、全構成員の意識改革を進めます。
3. 多様な視点や価値観の融合による教育研究の発展を目指して、積極的な多様性の拡大に取り組みます。

令和5年12月14日 国立大学法人金沢大学長 和田 隆志

金沢大学ワーク・ライフ・バランス推進宣言

少子高齢化により労働人口が減少する社会では、これまでとは異なり育児や介護などのために時間的な制約のある人にも働きやすく活躍できる職場環境の提供と、優秀な人材の確保・育成が重要な課題です。

これを実現すべく、本学では育児や介護といったライフイベント中の構成員等に対する意識改革と、ワーク・ライフ・バランスの支援体制を整備し、構成員自らの資質と能力を十分に発揮できるよう、オール金沢大学で取り組んでまいります。

ここに以下の取組を行うことを宣言いたします。

構成員のライフイベント等に関する意見に耳を傾け、本学全体の意識改革を進めます。

ライフイベント中の構成員の代替要員や支援員制度、休暇・休業制度の積極的な活用を推奨し、ワーク・ライフ・バランスの推進に努めます。ICTの活用や業務の実施時間及び要否の見直しによる効率化に取り組みます。

これらを実行・定着させることにより、本学の構成員がともに働きやすい職場環境を築きます。

令和4年10月21日 国立大学法人金沢大学長 和田 隆志

「ふむふむフェムテック」概要

ふむふむフェムテック

経済産業省 令和5年度「フェムテック等サポートサービス実証事業費補助金」採択プロジェクト

「思考するトイレ空間」としてのフェムテック情報ステーションの構築—大学で働く教職員と社会人予備軍である学生に向けたヘルスリテラシー向上プログラムとフェムテック研究推進プロジェクト

会期：2023年10月16日～2024年2月16日

会場：金沢大学角間キャンパス

企画：金沢大学ダイバーシティ推進機構

キュレーション：高橋律子（ダイバーシティ推進担当専門業務職員）

「思考するトイレ」デザイン：福岡南央子（woolen）

協力団体

- ・味の素株式会社（雑談のチカラ）
- ・株式会社ウーレン（インフォグラフィックデザイン）
- ・花王株式会社（雑談のチカラ）
- ・日本カルミック株式会社（自動開閉式サニタリーボックスの利用提供）
- ・特定非営利活動法人クラブぽっと（セミナーの企画）
- ・株式会社グロスベネフィット（ナプキン提供モニターの設置運営）
- ・ユースの保健室（学生とのプロジェクト）
- ・fermata 株式会社（フェムテックアイテム展示会協力）
- ・Lupinus 合同会社（雑談のチカラ）
- ・株式会社 VACAN（トイレ内サイネージ設置運営）

ほか、次年度にむけた意見交換など協力企業数 21 社

掲載メディア

【新聞】

- ・北國新聞（2023年10月17日）
- ・北陸中日新聞（2023年10月18日）
- ・日本経済新聞（2023年12月30日、2024年2月20日）

【ウェブ】

- ・PR TIMES（2023年10月31日）
- ・FASHION BOX（2023年12月16日）
- ・MonoMax（2023年12月25日）

「ふむふむフェムテック」プロジェクト記録集

発行：金沢大学ダイバーシティ推進機構

<https://ipdi.w3.kanazawa-u.ac.jp/>

執筆：高橋律子

デザイン：福岡南央子（woolen）

発行日：2024年3月8日



金沢大学ダイバーシティ推進機構